学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588 東京都豊島区目白1丁目5番1号
黎明会館316号室
電話 03(3986)0221 内線 2607

発行・編集人　安井大河
年間500円

成文堂
学習院店
03（3981）9718
〒171－0031

洗練された学び場へ
オープンキャンパス2017開催

来場者一万人超え 盛況のうちに終幕

本学のオープンキャンパスが7月29日～30日の2日間で開催された。大学概要・入試制度についての説明会や模擬講義など、その他多岐にわたる企画が展開され、各所で大変な賑わいを見せた。

7月は概ね気温の高い日が続き、特に初日は最高気温33・5度の真夏日となった。そんな中で今回のオープンキャンパスが開催された。その入場者数は10023名と、昨年度に比べ5%減少したものの、2年連続で1万名を超える人出があった。これは昨年度からの新規企画の発案や改善を重ねてきた結果だろう。また来場者の傾向として、父母と訪れる受験生が増えていることが挙げられる。受験生に限らず、保護者にも焦点を当てたコンテンツの拡充が来場者増加の大きな要因である。保護者向けキャリア教育説明会、経営学科青木ゼミと製パン会社の共同開発に関する説明会が新規企画として催された。本学のオープンキャンパスは大学だけでなく、学生からも様々な提案がなされて開催されたものである。例えばインスタグラムの画面を模した記念撮影フレームの設置や学生トークショーも大幅な見直しがあった。これらの企画と合わせて今年は混雑緩和にも取り組んだ。毎年大勢の来場者が参加する全体説明会を初めて百周年記念会館で実施し、円滑な運営を図った。そうした細やかな試みが全体の満足度の向上につながったのである。

来場者にとって、在学生や大学職員に直接相談できるのはまたとない機会である。本学では来場者のニーズに合わせて、5種類の個別相談コーナーが設けられた。特に各学科教員との個別相談は、様々な分野の教授の話を同じ場所で聞くことができ、終日多くの来場者が訪れた。またオープンキャンパスに欠かせないのが模擬講義だ。今年も全ての学科で行われ、午前と午後で内容が異なる学科もあり、参加者は熱心に講義を受けた。

以前にも増して工夫を凝らしたオープンキャンパスについて本学学長室広報センター課長は「今回のオープンキャンパスは新規企画の実施、学生企画の充実を図り、本学の学びや人の魅力を訴求できました。更に教職員・学生スタッフの親身な対応も功を奏し、来場者アンケートは良好でした。また初の試みとして静岡からの送迎バスを運行し、遠方からの来場を促しました。オープンキャンパスは高校生の大学選びにおいて重要なイベントで、各大学が工夫を凝らしてます。本学も来場者アンケートの結果などを踏まえ、更なる企画の充実や改善を図っていきます」とコメントした。

今後の実施予定日は10月28日（土）と11月5日（日）であり、今回と同様に沢山の方の来場に期待がかかる。

経営学科青木ゼミ Pascoと共同開発

去る本年8月1日、本学学生と敷島製パン（Pasco）が共同開発した菓子パン2品が発売された。

同社との共同開発に臨んだのは、経済学部青木幸弘ゼミの学生たちだという。Pascoと青木ゼミは2009年から共同開発に取り組み、過去3回にわたって6品を開発してきた。

まず、今年製品化した2品のうちの1品目を紹介する。それは「塩バターフレンチスティック4本入」だ。バター風味と塩味の強いカスタードチップを混ぜ、女性好みの「あまじょっぱい」味わいに仕立てた。忙しい子持ちの共働き女性が片手でも手軽に食べられるように開発された。フレンチトーストをイメージしており、トースターで温めるとバターの風味が際立つ逸品である。続く2品目の「ちぎってフォンダンショコラ」は、最近流行りの「甘党男子」をターゲットとして設定されている。甘みのあるチョコとビターなチョコが一緒に包み込まれており、バランスの取れた味が特徴だ。電子レンジで温めることで、トロッとしたチョコレートの食感が楽しめる。

2品ともターゲット像が詳細に想定されていることから、製品化に至る道のりは長かったであろうことが窺い知れる。

女子学生が多いゼミということもあり、企業側からは女性目線や学生目線での発想やアイデアが期待されていた。製品化に至るまでに、学生はアンケート調査から実食調査まで多岐にわたる調査を独自に実施した。その中でターゲットとなる顧客を設定し商品のコンセプトを固めたという。

青木ゼミでは、Pascoとの商品開発だけでなく、様々な企業とマーケティングに関する共同研究を行っているという。すでに3年のゼミ生が新たな開発を進めているということで気が早いかもしれないが既に来年の新商品が楽しみだ。

さらに親しみやすいHPを マジマジメマガジン

学習院大学は受験生向けの情報サイト、マジマジメマガジンを開設している。本サイトは真面目な中にこそ活発さ、楽しさがあるというコンセプトのもと、2016年に立ち上げられた。本HPは本学の良さを多角的に伝えることを心掛けている。今年は本学のマスコットキャラクターであるさくまサンが本学の魅力を伝える漫画の新編が作成された。新編では、さくまサンが本学内にある施設について紹介する内容になっており、多くの受験生に閲覧された。さらに今年のオープンキャンパスでは、本サイト上でタイムテーブル等の情報の公開時期を早めた。また本学のSNSサイトや来年度から始まる一般入試新制度の紹介動画のリンクを掲載した。受験生向けの情報を中心とすることで、受験生にとって本サイトは、本学を知るための大きな情報源となるであろう。今後も魅力的なHP作りを通して、情報の発信を強化していく予定だ。（永）

明答浄抗

人間誰しも何かを行うことへの得手、不得手がある。私の場合、もし誰かに「不慣れなものは何か」と聞かれたら、「パソコン操作」と真っ先に答える。実際はパソコンに限らず、機械操作全般が苦手ということは同期には隠すことのできない事実だ▼このパソコンにおいて、近年注目されてきたのが「クラウド」である。語源は諸説あるが、インターネットの先のコンピューターの形態がどういう状態か利用者に見えづらいことを「雲」で表現したことが所以だという。これにより、どこからでもデータを閲覧することが可能になり、情報共有など作業効率が格段に向上した▼ただ、技術の進歩で日常生活は便利になったものの、やはり人間は天気には勝てないようだ。今夏は九州北部豪雨に台風5号、東日本の太平洋側での長雨など「雨雲」に翻弄された。まるで季節が梅雨に逆戻りしたようであった。と思ったら一転、8月後半からは遅れてやってきた本来の蒸し暑さで、ようやく夏らしさを実感するようになった▼世界に目を向けると、近隣諸国や同盟国は対外関係や内政で混乱するばかり。天気も世界情勢も入手できる情報は増えた。だがその一方で、良くも悪くも不安定さでさえも、より簡単に且つ正確に認識可能になったという結果を生んでしまったようである。（虎）

学習院 研究最前線 学問研究の「いま」

「持続可能な社会を切り拓く」
法学部政治学科 遠藤 薫 教授

PROFILE
東京工業大学大学院理工学研究科後期博士課程修了。1993年より信州大学人文学部助教授、その後、東京大学社会情報学研究所客員助教授などを経て、2003年より本学に赴任。2015年4月より大学院政治学研究科委員長。

◇　◇　◇

今回は、理論社会学、社会情報学、社会シミュレーションなど実証的な研究に取り組む遠藤薫先生に、研究などに関して、詳しくお話を伺った。（取材・構成　齋藤美穂）

身近な社会学

学生時代は、現在ご専門の社会学ではなく理系の学問を学んでいたという遠藤先生。では、社会学研究の道を歩むことになったのは何故だろうか。

現在、人工知能（AI）の導入に伴う経済や雇用に及ぼす影響に関する議論が活発となっているように、コンピュータが本格的に社会に普及した際、人々に混乱を招いた。当時について、先生は「科学技術は人間にとって便利で、且つ作業の効率化などに役立つと信じられていた。しかし、実際に社会の中へ技術を取り込んだとき、良い影響だけをもたらすわけではないことを実感した」と語る。科学技術が提供するものに社会は必ずしも順応しない。そこで、「科学を理解した者が社会との結びつきを考え、それらをうまく共存させる研究をする必要性を感じたのです」と話してくれた。

社会へのアプローチ

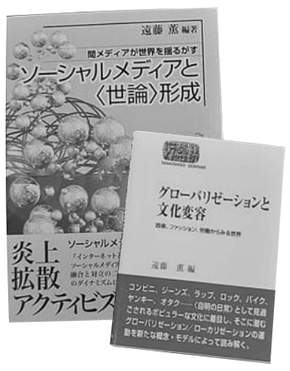
先生は専門とする社会学について、情報・意識・文化・メディアといった視点からのアプローチとコンピュータを用いた実践的な研究に取り組んでいる。現在、シミュレーションによって以前まで把握が難しかった社会の動きを再現し、知見を得ようとする研究を行っている。持続可能な社会の在り方とその実現に社会シミュレーションが如何に役立つかをテーマとしているそうだ。

先導的な知の追求

今後については、「一見散逸しているかのように思われる社会的要素を結びつけ、新たな社会学を築きたい」と語った。そのために、自然科学的な方法論を導入して、社会学を客観的にすることが重要だという。さらに、「日本の社会を欧米と比較して悲観あるいは過信するのではなく、多様な社会が相互に及ぼす影響を考えて、より良い社会づくりに役立つ研究をしていきたい」と決意を語ってくれた。

教育者として

最後に本学で学ぶ学生に向けてメッセージを伺った。遠藤先生の印象では、本学の学生は「各々に素晴らしい才能を持ち、真面目に勉学に励んでいる」という。さらなる成長の可能性を信じ、「もう一歩前へ進んで、未知の世界に飛び込むことのできるような積極性を持ってほしい」と激励の言葉をいただいた。常に変化する社会と向き合い、新しい社会学を探求する先生は、知の最先端を発信し続けてくれるに違いない。



情報特急便

日商簿記三級対策講座（基本講座＋直前対策）
【学習院大生・学習院女子大生限定講座】
日程：10月30日～11月16日／月・木曜日開講／18時30分～21時10分
回数：全5回
定員：40名（最小催行人数15名）
料金：17800円（基本講座のテキストをお持ちの方はテキスト代3000円を差し引きます）
詳細：11月の日商簿記3級対策講座になります。基本講座はWEB講座とし、直前対策は目白キャンパスでの教室講義とWEB両方を利用出来ます。WEBでの基本講義は一回165分ですが自由な時間で何度も視聴できます。

学習院キャンパスまるごとミュージアムツアー
日程：10月21日（土）13時～15時30分
定員：20名（最少催行人員8名）
料金：2160円
備考：電話のみの受付

紙面紹介

2 大学淘汰時代 生き残るには
3 今を残す カメラにせまる
4 リーグ戦3連勝

1部昇格へ向け、奮闘するラクロス部男子。秋季リーグ第3戦の東洋大学との試合は本学が16対8で勝利した。

学習院大学新聞社
大新
@gakushuinpress
一緒に新聞を作りませんか？
新入部員随時募集中！
気軽に follow me!

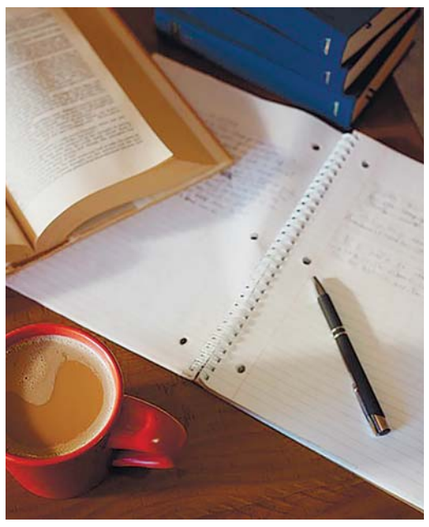
大卒レベルの公務員試験に強い学校！
2016年度TAC・Wセミナー 公務員講座生※1
自治体別最終合格者占有率※3
知ってますか？
最終合格者の3人に1人がTAC・Wセミナー生です！

自治体	区分	TAC・Wセミナー生最終合格者占有率※3	公務員講座生※1最終合格者数※2／最終合格者数
横浜市	大卒程度事務	3.2人に1人	31.2% 142名/455名
川崎市	大卒程度行政事務	2.2人に1人	44.6% 82名/184名
相模原市	行政（大卒）	5.0人に1人	20.2% 20名/99名
神奈川県	Ⅰ種行政※5	2.3人に1人	43.0% 95名/221名
さいたま市	大卒程度行政事務	3.2人に1人	31.5% 67名/213名
埼玉県	上級一般行政	2.3人に1人	43.0% 110名/256名
千葉市	上級事務行政A＋行政B※6	4.7人に1人	21.4% 9名/42名
千葉県	上級一般行政※7	4.4人に1人	22.7% 44名/194名

特別区Ⅰ類【事務】
※公務員講座生※1最終合格者数617名／全最終合格者数1,781名＝34.6%
東京都Ⅰ類B【行政（一般方式＋新方式）】※4
※公務員講座生※1最終合格者数237名／全最終合格者数687名＝34.5%
※1 公務員講座生とは公務員試験対策講座において、目標年度に合格するために必要と考えられる、講義、演習、論文対策、面接対策等をパッケージ化したカリキュラムの受講生です。単科講座や公開模試のみの受講生は含まれておりません。
※2 同一の方が複数の試験種に合格している場合は、それぞれの試験種に最終合格者としてカウントしています。
※3 合格者占有率は「公務員講座生※1」を「各試験の最終合格者総数」で除して算出しています。
※4 東京都Ⅰ類B最終合格者数は、一般方式と新方式を合計した人数です。
※5 神奈川県最終合格者数は「行政（秋季チャレンジ）」は含んでいません。
※6 千葉市最終合格者数は行政Aと行政Bを合計した人数です。
※7 千葉県最終合格者数は一般行政Aと一般行政Bを合計した人数です。
＊2017年2月15日時点で、調査にご協力いただいた方の人数です。
TAC公務員講座（地方上級・市役所・国家一般職）
近隣校舎 9・10月無料ガイダンス 予約不要
水道橋校：9/20(水)14:30～ 9/26(火)18:30～ 10/7(土)18:30～ 10/17(火)18:30～ 10/24(火)18:30～ 10/31(火)18:30～
新宿校：9/18(月)14:30～ 9/25(月)18:30～ 10/2(月)18:30～ 10/9(月)14:30～ 10/19(木)18:30～ 10/26(木)18:30～
池袋校：9/18(月)14:30～ 9/27(水)18:30～ 10/3(火)18:30～ 10/11(水)18:30～ 10/18(水)18:30～ 10/24(火)18:30～ 10/28(土)14:30～
渋谷校：9/19(火)18:30～ 9/27(水)18:30～ 10/6(金)18:30～ 10/18(水)18:30～ 10/26(木)18:30～
上記以外の校舎のガイダンス日程については、TACホームページ等でご確認ください。
首都圏直営校：早稲田校／八重洲校／立川校／中大駅前校／町田校／横浜校／日吉校／大宮校／津田沼校
資格の学校 TAC
公務員講座のお申込みに当たっては、学習院生限定のお得なコース「学習院本科生」がございます。詳細についてはTAC各校にお問い合わせください。
公務員講座の最新情報・校舎情報はTACホームページをご覧ください。▶http://www.tac-school.co.jp/kouza_komuin.html

目前に迫る2018年問題

大学の「2018年問題」が大きな関心を集めている。それに伴い、大学は本当に必要なのかということも議論を呼んでいる。2018年問題とは一体何なのか、大学不要とはどういうことなのか。今回はこれらの問題を紐解いていく。



近年、多くの大学が業績困難からの脱却を目的に、経営改革などを進めている。このような変革期である今、大学業界はどのような形に変化を見せようとしているのだろうか。今回は、大学運営方針をめぐる様々な論も交えながら、現代の大学の実態について迫っていく。

最初に改革の背景といえる「2018年度問題」について見ていく。「2018年度問題」とは、18歳人口の減少を理由に、大学入学者数が減る現象のことを言う。

2009年以降、18歳人口は減少傾向にあった。このことは、今までも大学入学者数に多少なりとも影響を及ぼしていたが、大学経営、進学率の飛躍的伸びにより成り立っていた。しかし2018年、人口減少期への本格的な突入と進学率の限界に達する時期が重なってしまう。つまり、2018年から、大学の経営環境は、かつてない危機に襲われ、大学改革をしなければいけない状況になるのである。

「2018年度問題」発覚後、政府は次のような対策を図った。文部科学省により設置された審議会である国立大学法人評価委員会は、大学に人文社会科の縮小を命じた。この理由として、理系の研究は技術革新や産業振興で国益に繋がるが、文系の研究は役に立ちにくいという考えが関わっていると考えられる。そして、ここ数年間で、文系縮小化の動きは大規模に拡大していった。

そのため、多くの国立大学では理系の学部を拡大し、専門性に特化した学部学科の増設を図った。またそれに伴い、入試制度もここ数年で大幅に変化している。そして、このような動きが、偏差値の値の差によって生じる大学格差を更に広げていった。

このように、理系の大学が重視されている中、大学に行く必要はないという大学不要論が世の中に広まっている。

この考えの主体である堀江貴文氏は、大学について、大学の試験制度を廃止し、誰でも入学できる環境にすべきと主張した。理由としては、現在、ネットの普及により、大学で学ぶほとんどのことを自ら学べるようになったことを挙げた。つまり、わざわざ高い学費を払ってまで大学に行く必要がないと考えたのだ。また、大学を不要と考えることで、近年の奨学金滞納問題に対応できるとした。

以上が現在の大学の実態である。様々な問題を抱える中、大学は今、理系に特化することで、2018年度問題に対応しようとしているようだ。

専門性が求められる現代の大学業界。私たちは、本格的に自分のスキルを磨く必要がでてきたのかもしれない。

（渡邉紗英）

学生は今、何を思うか。

大学淘汰時代について実際の大学生はどのように捉えているのだろうか。本校の文系学部の生徒数名に、アンケートに回答してもらった。彼らは人文社会学系の学問を軽視する風潮には、反対であった。

その理由としては、理系至上主義に拍車がかかり、文化の継承が行き届かなくなること。そもそも学問はさまざまな分野が組み合わさって初めて成り立っているから。また、自国の社会について、何も知らない人が増えていくことは、その文明の衰退に繋がるのではないか、といった意見挙げられる。

人文社会学は思考を構築する能力に役に立つといった意見が多い。一方で、人文社会学系統の学生に限らずとも、日本の大学生の学問に対するモチベーションの低さは自明だ。その理由としては、大学名重視の風潮や、3学年からは時間の多くを就職のために使う現状が挙げられた。つまりは、どういった人物が就職という形で社会に評価されるかに起因するように感じた。さらに、どういう人物が社会で評価されるべきかを尋ねた。何かに一生懸命取り組み結果を残した人。また、自分の知識や経験を、他の人や後輩等に上手に教えることができる人。他にも、努力できる人や仕事ができる人、といった主張が見られた。

確かに、理系の学問や、人文社会科学の中でも例えば経営学などは、社会に出てからの即戦力として役に立つ学問であろう。しかし、役に立つものはすぐに役にたたなくなるという考え方がある。例えば、理系の分野にしても、2045年には人工知能が人間の脳を超えると言われている。何が正しいのかという価値判断をするための教養を養うことができるのが人文社会学ではないだろうか。これは、どんな時代にも普遍的に応用が利く。目先の利益で役に立つ、役に立たないを決めてしまうのはいささか危険であると考える。

最後に彼らに、大学生のうちに何をしたいかを尋ねた。人と関わること。より世界を知り、広い視野で物事を見たい。自分自身で選んで入った学問を学び、社会に出ても恥ずかしくない大人になるための準備をしたい。たくさん知り、挑戦して色々な人に出会いたい。学業と部活、適度なバイトとの両立。などが挙がった。

比較的、自由度が高い大学時代。学生の今だからこそ、できることも多いはずだ。これを機に、大学時代に何を学び得るか、考えるきっかけにしてほしい。

（正生雄大、島崎あゆみ）

文系学部は本当に、不要なのか。

「文系は役に立たない」。極端ではあるが、文系の学生も含め、多くの人がそう思っているのではないか？確かに、文系学問は理系に比べ、学ぶ目的が不明瞭でゴールが見えない。さらに、大学での学びや研究が将来の仕事に直結しにくい印象もある。では、本当に文系は不要なのか。その点について皆さんにも是非一度考えて貰いたい。

2年ほど前、メディアで取り上げられた「国立大学文系学部廃止論」が大きな論争を呼んだ事は記憶に新しい。今回、この論争についてドイツ語圏文化学科、大貫敦子教授にお話を伺った。

まず、文系学問が行ってきた事は、知が人間に何をもたらすのかを問うことだ。理系・文系を問わず人間の知は時には人間に不幸をもたらした。その過去の事実を踏まえ批判的に現代を見る視点が文系の知ではないか。そうした思考が広い視野を生む。情報の精査、つまりメディアリテラシーが現代では必要と言われている。文系は過去の文献を読むことが多いので現代には役立たないと思われがちだが、メディアリテラシーの育成はまさに文系学問が行ってきたことだ。情報社会を生き抜くためには、文系、理系と分けて捉えるのではなく、どちらの性質も兼ね備え、過去の負の歴史と向き合い、これから起こるであろう事に対応できる思考力を身につけることが大切だ。

文系学部の必要性を説く大貫教授

文系不要論が生まれた原因は、日本の教育制度にもある。現在の日本の入試の仕組みでは、高校の時点で文系、理系の選択を迫る。常に過去と現代を往還しつつ問い続ける文系的能力と、目的合理性を優先する理系的思考回路の両方を育んでいくことは難しい。

また、知識詰め込み型の大学入試形態にも問題があるだろう。さらに、少子高齢化や教育経費削減といった問題がこの論争に拍車をかけたと言える。

近年では教育改革の一環として、授業のアクティブラーニング化や、思考力を問う自己推薦型入試が取り入れられつつある。

しかし、古くから慣例化されてきた教育形態とそれに対する人々のスタンスはすぐには変わらないだろう。だからこそ「今」学んでいる学生が自身の中にある文系理系の垣根を取っ払い、様々な分野に探究心を持って学んでいくべきではないか。

（遠藤加寿）

記者の眼

振り返らず胸を張る

物騒な世の中になった。昔は良かった。それに比べて今は…と大人達が現代、そして現代を生きる若者の姿を嘆く。誰もが何処かで一度は目にした事のある光景だ。最近、特に2010年代に入ってから頻繁に見かけるようになったと思う。我々が生きる現代は昔と比べて悪い時代なのか。また現代に足りないものは何なのか。今回は一人の若者として意見・考察を述べていきたいと思う。

このテーマについて書こうと思ったきっかけは犯罪認知件数が2000年代前半から急減している事。そして殺人事件も戦後から減少傾向が続いており、現在は過去最低水準である事を知り、驚いたことだ。それまでは自分も現代、特に平成は昔に比べて危険で劣悪な時代だとばかり思っていた。今この文を読んで初めて知った方も少なくないだろう。

では何故事実と実感が一致しないのか。これはテレビを始めとしたマスメディアの報道に左右されている部分が大きい。殺人事件についての時間配分を増やせば、あたかも殺人事件が増えていると錯覚するのは当然のことである。

現代人としての誇りを

私はマスメディアの批判をしたいのではない。情報の豊富なこの時代。国民の危機意識や危機管理を扇動する為に時間を多く割くのは何も悪いことではない。問題は悪いところばかりに目を向ける現代人だ。あえてここでは述べないが、昔にはなかった現代の良いところはたくさんある。個人の自立が求められる現代だからこそもっと一人一人が自分たちの産まれ、生きている時代の良さを認識し、誇りを持ってもいいはずだ。完璧な時代など存在しない。「この国は終わった」、「政府が悪い」。分かったような顔でこう吐き捨てるのは誰にでも出来る。批判的な目線ももちろん大事ではある。しかし過ぎ去った過去の良さや改善が可能な現代の悪いところよりももっと強調されるべきものがあるはずだ。

たとえ今が暗い時代だとしても暗闇で煌めく光の一つとして思い切り輝けるよう、そして我々の子の世代を明るく照らす存在になれるよう残りの大学生活、そして残りの人生を生きていこうと思う。

（佐藤翔太）

大学淘汰時代の広報戦略

巷では、2018年以降の18歳人口の減少にともなう大学淘汰の時代がやってくると囁かれている。そんな時代を生き抜くために各大学は志願者数の確保のための広報活動に力を入れ始めている。

まず大学の広報として真っ先に思い浮かぶのがオープンキャンパスだ。受験生が大学に直接来る数少ない機会であるため大学にとって受験生へアピールする絶好のチャンスである。最近では遠隔地から無料バスを運行したり、交通費として現金を補助するなど、より多くの受験生を呼び込むために工夫している大学が増えているようだ。

また近年、受験生の生活スタイルに合わせた広報も目立つ。例えば、SNS。多くの受験生が日常的に目にし、拡散性も高くコストも低いということで大学広報関係者から注目を集めている。すでに数多くの大学がSNS上で公式アカウントを持ち、情報を発信している。

これから先、大学の数が減少していく中で生き残れるかどうかは各大学の広報戦略にかかっていることは明白である。

（稲葉弥知朗）

取材を終えて

問題視されている2018年は、すぐそこまで迫ってきている。今回の特集が、大学淘汰時代に対する自分自身の意見を持つきっかけになれば幸いである。

長いようであっという間の大学生活。4年間で何を学び、どのように社会へと飛び立っていくのか。大学不要論が生まれるといったピンチを、どうチャンスに変えることができるのか。このような時代だからこそ、我々大学生の真の実力が試されている。時代の風潮に流されず、確固たる自分自身の道を切り開いていきたい。

（鈴木麻衣子）

企画　正生　雄大
レイアウト　安井　大河
構成
担当　稲葉弥知朗
遠藤　加寿
國井日南子
島崎あゆみ
鈴木麻衣子
渡邊　紗英
佐藤　翔太

ONLY LYON 第1回

Bon Jour!

リヨン支局開設!!

今月から留学についてコラムを書くことになりました、学習院大学新聞社所属の国際社会科学部2年・國井日南子です。現在は本学の協定留学制度を利用し、フランスのリヨン政治学院に留学しています。

記念すべき第一回のテーマはずばり「リヨン」。リヨンはフランスの南東部に位置する面積約50㎢の小さな街です。旧市街の街並みは世界遺産に登録されています。街の中心に流れるのはフランス四大河の二本、ローヌ川とソーヌ川。川沿いではマルシェが開かれたり人々の憩いの場になったり、日々の生活に欠かせない場所です。

美食の街としても知られるリヨン。イタリアのメディチ家仕込みの宮廷料理を我が物としたことがその由来となっているそうです。そしてその名物がクネル。王道の「川カマスのクネル」は魚と卵にパンを加え、スフレ状にしたもの。これにオマール海老やザリガニのクリームソースをかけて頂く、洋風のはんぺんのような料理です。

多少なりともリヨンに興味を持っていただけましたでしょうか。私もこれから新たな発見をできるのが楽しみです。それでは次回まで、Au revoir!

桜友会特別フォーラム

全日本柔道男子監督

井上康生

私の柔道哲学　初心―次世代につなぐ

平成29年11月1日（水）　午後6時00分～7時30分
（開場午後5時00分）＜入場無料＞

2020年東京オリンピックへの挑戦

柔道家／東海大学体育学部武道学科准教授／ 1978年7月生まれ。宮崎県出身。東海大学体育学部武道学科卒業、同大学大学院体育学研究科修士課程修了。切れ味鋭い内股を武器に、大内刈、大外刈、背負投げなどを得意とする攻撃型柔道で数々の結果を残す。99年、01、03年世界選手権100キロ級で優勝。2000年シドニー五輪100キロ級で金メダルを獲得。01～ 03年全日本柔道選手権優勝。08年に第一線を退き英国に2年間留学、帰国後の11年から全日本強化コーチ、12年11月より全日本監督を努め（現在2期目）数々の強化策を打ち出しリオ五輪で大きな成果を生んだ。

会場：学習院創立百周年記念会館　主催：学習院同窓会桜友会

お申込み方法　ご来場ご希望の方は、桜友会ホームページでお申し込みください。入場券をお送りします。

お申込み先　http://gakushuin-ouyukai.jp/
「桜友会特別フォーラム申込書」をクリックして下さい。

今すぐお申込みください。

学習院の学生・生徒・ご父母・卒業生・ご友人、教職員の皆様、多数のご来場をお待ちしております。

カメラ越しに見る世界。

意外と知らない歴史を探索

人生のさまざまな行事や友達との何気ない時間など近頃の私たちは写真を撮る機会が増えてきている。今のようにカメラが身近になったのはやはりスマートフォンの普及が大きいだろう。では今のようにいつでも、どこでも使うことができるようになるまでにどのような歴史をたどってきたか、探っていきたい。

起源をさかのぼると、なんと紀元前だ。しかしこのころは撮影する機能はなく、外の景色を映すだけの装置であった。その後、15世紀ごろに改良され「カメラ・オブスキュラ」と呼ばれヨーロッパの画家たちの間で流行する。この時代もフィルムを使った撮影ではなく、映った景色などをなぞって写生するためのものであった。フィルムなどの感光材料による撮影が実現したのは、19世紀に入ってからである。だが、この頃は1枚の写真を撮るのに8時間もかかっており現代のものとは程遠いものであった。そしてこの時にようやく日本にもやってきた。焼き増しができない、すぐにプリントできないなど問題点も多かったが、19世紀に入り改良が多くなされる。感光材料が良質なものへと変化し、現在のものに近いフィルムが誕生する。その後カラーフィルムやインスタントフィルムが生まれ発達は加速していく。しかしこの頃のカメラは大きく、今のように手軽に持ち運べるものではなかった。この状況を一変させたのが、ドイツのオスカー・バルナックという人物だ。彼の功績により小型化したカメラは、市民のものとして広がっていった。以後、写真技術は一気に電子化していく。アナログからデジタルへと移行しデジタルカメラが誕生。誰でも使える道具となった。同時期に普及した携帯電話にもカメラ機能が搭載され、一気に私たちの生活の中に入ってきた。

長い年月を経て身近な存在となっていったカメラ。今はあまりにも手軽に使えてしまうが、ここに至るまでに非常に多くの時間と労力を要した。現代において生活の中心となったカメラの歴史をこの機会に振り返ってみてはいかがだろうか。

（多田愉梨）

最近の写真ブームで以前よりも需要が増しているカメラや携帯の撮影アプリ。流行でありながら昔から続いている写真やカメラを知ることによってより楽しむことができる。今回は昨今の写真事情を調査した。

販売員に聞く奥深いカメラの世界

池袋駅東口を出ると、すぐにビックカメラの赤く大きな文字が見える。今回はビックカメラ池袋本店の地下一階にて、島宗春穂さんにカメラや写真についてのお話を伺った。

カメラをざっくり分けると、コンパクトデジタルカメラ、ミラーレス一眼、デジタル一眼レフ、そして一眼レフの四種類になるそうだ。コンパクトデジタルカメラとはいわゆるデジカメのことで、レンズ交換はできない。ミラーレス一眼はレンズ内部の鏡をなくすことで軽量化を図ったものだ。価格帯も一眼レフより手が届きやすい。その一方で、ファインダー越しに撮影することができないものが多い。

だいたいどのカメラにもP・A・S・Mのモードがある。しかしこれについてはよくわからずに使っている人も多いのではないだろうか。筆者もその一人であった。Pモードは比較的難しい部分を自動で補正してくれるものだ。白の色味を調節できる「ホワイトバランス」と明るさを調節する「露出」だけを変更することが可能だ。Aモードはシャッターを切るスピードだけを自動で、他は自分で設定する。Sモードは水しぶきや動きがあるものを撮るときに適している。うしろのボケ感を表現するうえで用いる「F値」だけが自動でなされる。Mモードは全て自分で調整するものだ。

ここ数年、女性からの需要が高まっており、島宗さんによれば男性客より多いように感じることもあるそうだ。また、業界全体の流れとして「コンパクト」があるそうで、ミラーレス一眼の需要は高まっている。そこでおすすめなのが、ミラーレス一眼のオリンパス社製の「PEN」という商品だそう。こちらはまず見た目が可愛らしく、女性人気が非常に高いのもうなずける。軽くて持ち運びもしやすい。

デジカメとスマホの撮影機能の差はなくなってきている傾向にあるが、やはり一眼レフとの写真の差はまだまだ大きい。スマホで撮った写真と友人の一眼レフなどで撮った写真を比べ、自分も欲しくなるという人が増えているようだ。

カメラはそれほど安いものではなく、無くても困らないものである。それでも持ちたいと思うのは何かそれを使いたい目的やこだわりがあるはずだ。その目的を明白にすることで自分にぴったりの一品を見つける

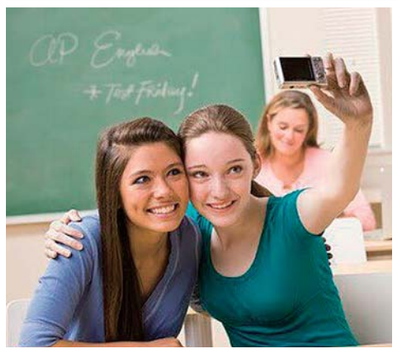
M・S・A・Pのモード

「映える写真」を求める若者

現在TwitterやFacebook、Instagramなど、私達の日常に欠かせないものとなっているSNS。中でも若者の間でトレンドワードとなっている「SNS映え」とは一体何なのか。言葉の意味を掘り下げる。

まず「SNS映え」とは、SNS上で写真をアップロードして公開した際に評価が良いという意味だ。最近では自分がSNS上でどう思われるか、どういう人と見られるかが重要になっている。そのためより良い写真を撮ろうとする人々が急激に増えた。毎年行われている「ユーキャン新語・流行語大賞」にも「SNS映え」が選ばれるのではないかとも言われている。

ではこの「SNS映え」とは具体的にどういうものか。まず、SNS上での評価が良いことをSNS映えしているとと一般に呼んでいる。しかし、見方を変えれば現実で行ってきた会話の中での自分に対する印象づけや評価を、SNS上でも行う必要が出てきたとも言える。そしてそれを行うことは、SNS映えする投稿をすることと同じ意味として扱われると言っても良いだろう。そのため従来では考える必要のなかったSNSにアップする写真やコメントにも気を遣う必要が出てきたのだ。



またSNSでの投稿に対して「いいね！」などのリアクションができる機能がある。そしてその「いいね！」の数が重要視されてきており、「SNS映え」＝「いいね！の数」ということになっていると言える。最近ではその「いいね！」が多くつけられる写真を積極的に発信し人気になっている人は「インフルエンサー」と呼ばれる。中には芸能人になる人や、企業のプロモーションを請け負うような人も出てきているのだ。ただし、投稿しても「いいね！」が多くつかなければSNS映えしていないということにもなる。最近ではそのようなSNS映えを意識したお店が人気を呼んでいる。しかしその流行の影では問題も起こっている。お店の商品を買わずに写真を撮るだけで退店する人や、買っても写真を撮ってすぐ捨ててしまう人が続出しているのだ。

このような問題が取り沙汰されたりもする「SNS映え」。しかし、商品の売り上げが伸びたり、今まで知られていなかった物や場所に注目が集まったりと、悪いことばかりではない。それどころか、積極的に外出するようになったり、写真撮影の知識が増えたりと良いこともある。SNSを楽しむのは個人の自由であり、誰かと一緒に写真を撮るのは楽しいことだ。ルールに従って楽しむ事を心掛けよう。

（野口英嗣）

スマホカメラの上手な使い方

みなさんはスマホで写真を上手に撮るコツを知っているだろうか。今回はスマホカメラの機能や工夫で上手に写真を撮る方法を3つ紹介していきたい。

まずグリッド線を使う方法である。グリッド線とは、画面を9等分する線のことを指す。交点や枠内に被写体の位置を合わせると簡単にバランスの良い写真が出来上がる。次にネガティヴスペースを生かす方法だ。ネガティヴスペースとは被写体の周囲の環境のことを指す。なるべく大きな壁や空など被写体を引き立たせるものが良い。最後はズーム機能を避ける方法である。ズーム機能を使うと画像が荒くなったり、ぼやけてしまう。被写体と距離がある時は自ら被写体に近づくと良い。

使い方ひとつで素敵な写真を撮ることができる。みなさんもお手持ちのスマホで綺麗な写真を撮影してみてはいかがだろうか。

（高尾紗矢）

知りたいっ！名店の味

タイのラーメン THAI NOODLE&FOODS

目白駅より徒歩2分。改札を出て左側にある横断歩道を渡り、線路沿いに歩いた所にその店はある。本格タイ料理店の「タイのラーメン　THAI　NOODLE＆FOODS」。扉を開くとおしゃれな空間が広がっていた。白を基調とした店内は、20席ほどで高級感溢れる店内には、バーカウンターも完備されている。

今回は、店長一番のオススメである、オリジナルトムヤムヌードル（750円）を注文した。麺はバミー（小麦粉麺）とセンレック（米細麺）から選べるのだが、後者を選び、さらにパクチーのトッピングを追加した。具材は豚ひき肉、エビ、マッシュルーム、もやしなど。スープは見かけほど辛くなく、さっぱりした味付け。こちらのトムヤムクンスープはココナツミルクが入りながらも、さらっとしたスープといった感じ。一品700円前後の料金設定なので、少数で行ってもいろんな種類のタイ料理を楽しめる。また、パクチー好きにはトッピングでパクチーを増やせるのも嬉しい。

ラーメン以外にもカレーやガパオなど、沢山のメニューがあり、複数人で訪れて、様々なメニューを少しずつ取り分けるのもオススメだ。テイクアウトもあるので、時間がない時でも本格タイ料理を気軽に食べる事が出来る。

お店の方も、とても親切で、訪れたお客さんと仲良さげに話したり、メニューの豆知識について熱心に説明している姿が印象的だった。常連客も多いようで、店の温かい雰囲気に引き込まれてリピーターになるのも頷ける。

そして、今回の取材で本学の学生でこの記事を読んだという方に限り、今年いっぱい、ライスやラーメンの大盛り無料にしてくれることになった。普段は大学周辺の飲食店にあまり行かないという方も大学からとても近い場所にあるので、この機会にぜひ立ち寄ってみて欲しい。

（高橋萌）

店名：タイのラーメン THAI NOODLE&FOODS
営業時間：ランチ 11:00 ～ 15:00
　　ディナー 17:00 ～ 23:00
定休日：なし
住所：東京都豊島区目白3-14-20
　　永長ビル1F
電話：03-6908-0773

トムヤムヌードルとパクチーの増量

本格エスニックを感じる

まだ何者でもない君へ

『つぼみ』宮下奈都著

≫BOOK

本書は宮下奈都による6本の短編集である。この物語群は大枠で捉えるとなにかに葛藤する若者たちが、一歩を踏み出す瞬間をそれぞれ切り取ったものだ。

かつて文章の表現を重視した芥川龍之介と筋（プロット）を重視した谷崎潤一郎の論争があった。本書を読み終わったあとには、芥川に肩入れをしたくなる。あらすじからはこぼれ落ちてしまうその一文一文に私たちが日々感じている言葉にすることのできない感情が描かれている。その言葉が自分の胸の中にすとんと収まっていく。文章が自分自身に入り込み自身の人生と重なり、本を読んでいるにもかかわらず自身が理解されたような多幸感に浸ることができる。この小説は、小説を読むという行為の意義と豊かさを感じさせてくれるだろう。

本書を読んでいると、そこに描かれている物語の時間的、空間的な端の先を思う。過去を受けとめ自分自身と向き合った登場人物。彼らはこの先の未来において縛られずどこにでも、何でもすることができるのではないかと思わせる。それは読者である我々にとっても同様だ。大学生活において自分自身がわからなくなり立ち止まってしまうことがあるだろう。そんな時ぜひ本書を読んでほしい。自分自身を見つめ直すヒントを与え、遠い場所もつながっていると思わせくれるだろう。

（臣）

（宮下奈都著　光文社　税込1620円　2017年）

企画・構成　鍔屋　花奈
レイアウト　多田　愉梨
取　　材　高尾　紗矢
　　高橋　萌
　　野口　英嗣
　　吉田　仁

得点許さず四大戦優勝

攻め込む中村選手（撮影・稲葉弥知朗）

ホッケー部女子

四大戦への決意

9月5日、武蔵大学朝霞グラウンドにて、女子ホッケー四大学運動競技大会が行われた。本学は武蔵大学、成城大学と対戦。1日で、2試合（1試合50分の変則ルール）を行う厳しい日程のなか、立派に戦い抜いた。

試合前、主将の前田紗代子選手（心4）は「強気、攻める気持ちを忘れずにやっていきたいです。ここ数年2位で終わってしまっています。今年こそ優勝して学習院の四大戦優勝に貢献したいです」と勝利を決意し、試合に挑んだ。

優勝に向けて

武蔵大学に2ー0で勝利を収め、成城大学との後半の試合に勝てば、優勝が決定する、大一番でホイッスルが吹かれた。開始直後は、積極的に攻め続け、高い位置でのパスカットからチャンスに繋げるが、決めきれない。しかし、その後、徐々に相手のペースになってゆく。相手のパスワークに翻弄され、攻められ続ける時間が続く。ホッケーは、相手にペースを握られると、取り返すのに10分かかると言われている。苦しい10分が続いたが、激しいマークによる守備で、得点を許さない。しかし、後半終了間際、大きなチャンスが訪れる。相手サークル内でのファールにより、ペナルティーコーナーが与えられる。濱崎陽菜選手（史1）からの正確なクロスが再三送られるも、DFに阻まれ、得点には結び付けず。0ー0のまま試合終了となった。

その後、成城大学が武蔵大学に1ー0で勝利したが、得失点差により、本学の優勝が決まった。

反省とこれから

試合後、山元まみ選手（政4）は「相手ゴール側フィールドでプレーをすることが今回の目標でした。武蔵大学戦では、それができて、結果に結びつきました」と試合を振り返った。また、優勝決定後、前田主将は「成城大学から点を取って勝ちきって優勝したかったというのが、第一です。でも、数年ぶりに優勝できたのは凄くうれしいです」と止まることのない向上心と喜びをあらわにした。

秋季リーグ戦での目標は、『2部優勝、一部昇格』というホッケー部女子。四大戦優勝で勢い付いた彼女たちの快進撃はもう始まっている。（宇田川直人）

	1Q	2Q	3Q	4Q	R
学習院	5	4	2	5	16
東洋	2	1	4	1	8

16対8で3連勝 1部昇格へ向け前進

ラクロス部男子

競り合う山下晶平選手（撮影・安井大河）

スターティングメンバー

背番号	氏名	ポジション
6	増山雄一郎	AT（アタック）
21	坪井駿	AT
77	楢崎大生	AT
27	鈴木理矩	MF
14	諸戸翔平	FO（フェイスオファー）
3	樺山竣平	LMF
12	吉田有志	DF
17	清水雄輝	DF
55	坂野秀和	DF
51	鷺実樹	G

一部昇格を目指して

関東学生ラクロスリーグが9月3日に学習院大学グラウンドにて行われた。リーグ戦にて本学は第1戦、第2戦で勝利を収めてきた。1部昇格を目標に掲げている今、この試合は落とすことができない。そんな中、オフェンスリーダーである増田雄司選手（営4）は「ホームでの試合なので、観客を楽しませる試合をして必ず勝利を掴みます。第1戦、第2戦と逆転勝利を収め、チームの勢いは最高です。ここで油断せず、大事に戦いたいです。東洋大学は1対1の能力が高いので、学習院の持ち味であるチームワークを生かして全員で勝利を掴みます」と語ってくれた。

勢いに乗って

秋を感じさせる風が吹く中で、いよいよ試合が始まった。第1クォーター（Q）のフェイスオフでは、諸戸翔平選手（営4）がボールを奪い取ることに成功。そして高速のパスをつなげていったところで楢崎大生選手（仏4）が開始1分でゴールを決めた。そこから勢いに乗った本学は息の合ったプレーを見せていき、第1Qは5対2でリードを決める。第2Q中には、清水雄輝選手（営4）の力強いシュートによりクロスが折れるという場面も。依然として本学がリードをしているが、相手は手堅くゴールを守り、ゴールのそばに決して寄らせようとしなかった。しかしそこでコートを広く使い、着実に点数を決めていく様子が見られた。

1部昇格へ前進

第3Q中も本学がリードをしていたが、相手チームが勢いづいている印象を受ける場面も。中には、相手2人に囲まれた時もあったが、焦らずパスを決める坂野秀和選手（営4）の姿が見られた。そして、いよいよ第4Qが始まると、お互いに最初から白熱したボールの奪い合いを見せていく。楢崎大生選手の正確なパスが増山雄一郎選手（済4）へと渡り、残り40秒のところでシュートを決める。そしてそれが決定打となり、16対8で本学が勝利した。主将である牧野泰宗選手（史4）は「明治学院大学、立教大学との試合もこの勢いで勝っていきたいです」と1部昇格に向け闘志を燃やしていた。

3連勝し勢いに乗って前進し続けている本学。これからの活躍にも目が離せそうにない。（岡野玲於奈）

粘り見せ奮闘

寝技に持ち込む串田選手（撮影・塚原優希）

柔道部

練習の成果を

9月3日、日本武道館にて、東京学生柔道体重別選手権大会が行われた。本学から6名の選手が勝利を目指して試合に臨んだ。試合前、徳山洋輔主将（政3）は、「日本武道館で試合に出ることに意味があります。その上で、普段練習している技を一つでも多く出せるかが重要だと思います。また、自分が納得する試合をしたいです」と力強く語った。

悔しい結果に

まず100キロ級の伊藤匠海選手（政1）は試合開始直後、相手に背負い投げをされ、一本負けしてしまう。次に、60キロ級の牟田一貴選手（生1）は寝技に持ち込もうとし、最後まで粘りを見せていたが、惜しくも敗北してしまった。

66キロ級には、徳山主将と北嶋亮太選手（法3）が出場。徳山選手は序盤のリードで勝利が見えたものの、返されてしまう。続いて、北嶋選手は相手選手が本学と同じ二部の選手なので、善戦になると思われたが、内股で一本負けを喫した。

73キロ級に出場したのは、串田太郎選手（法2）と久保田龍選手（物3）。串田選手は激しく組み合うが、技ありをとられ、負けてしまう。久保田選手は序盤に内股で敗北した。

今後に向けて

試合後、徳山主将は「部活に強い時期、弱い時期と大きく差があります。夏は合宿などで、努力をしてきましたが、成果を発揮できず残念です。しかし、日々練習を続ければ必ず次に繋がると思います」と今後を語ってくれた。（矢島涼葉）

訂正　先月号に掲載したサッカー部の写真で、撮影された選手の名前を辻選手と表記しましたが正しくは辻川選手です。以上の通り訂正しサッカー部関係者の方々へ御詫び申し上げます。

Daishin 2017

蝉の鳴き声は静まり返り、日中の蒸し暑さからも解放され、すっかり過ごしやすくなった。葉は紅く色着き、虫の鳴き声に鬱陶しさはなく、秋の足音が聞こえてくる。今年も残り4か月。「あっという間」という言葉では言い切れないほどだった▼チームは、一人ひとりが思いをひとつに、目の前の問題に取り組まなければならない。もちろん、それぞれが多少なりとも犠牲を払わなければいけない時もある▼人は犠牲の上に何を望むのか。生まれ育った環境が違う者のそれを探すのは困難だ。特に、団結して行動するチームの中で、万人が納得する答えを見つけ出すのは不可能だろう。だが少しずつでも、その答えに近づいていきたい▼「本当に上手く部をまとめていた」。ひとつ上の先輩方が引退され、改めて思う。責任重大な立場になったが、同じようにできるか不安だ。それでも覚悟を決め、任期中の職務を全うする所存だ。この1年間も、あっという間に終わってしまうのだろうか。（風）

ロッカールーム

本紙・石井が辿る本学アスリートの軌跡

射撃部 安田 憲一郎さん（政2）

目標見据えて

銃や的の種類によって様々に分類される競技射撃。その中から今回は、固定された的を狙うライフル射撃に日々打ち込む安田憲一郎さん（政2）にお話を伺った。

中学では野球部、高校ではバドミントン部に属し、大学では何か新しい事に挑戦したいと考えていたという安田さん。射撃部に入部した理由を「優しい先輩方や、同輩と共に高め合う部の雰囲気が気に入ったので、入部を決めました」と語る。

ライフル射撃では、10メートル先に設置された中心の直径わずか0・5ミリの的の真ん中を狙う。「とても繊細な競技で、小さな射撃姿勢のズレが大きく点数を左右します。心臓の鼓動でも銃が揺れてしまうので、射撃の瞬間には息を止めています」と難しさを語ってくれた。一方、「中心を射抜けたと感じ、実際に中心に穴の開いた的を確認した時はとても嬉しいです」と競技の楽しさも教えてくれた。

現在、ライフル射撃2段を取得している安田さん。個人での目標は3段の取得、そして全国大会出場を掲げている。「全国大会にはある程度のボーダーを超えた人しか行けないので、自分の目標にふさわしいと考えています」とやる気も十分だ。

全国大会へとつながる秋季大会も目前。チームを支える柱として、そのまっすぐな眼差しを今日も的の中心に向けている。（石井亜樹）

I WANT YOU !

学習院大学
ボウリング部
新入部員「常時」募集中

Reimei 518

Debate and
Discussion
Club
Since 1889